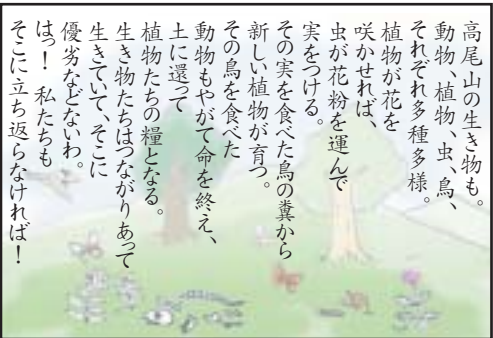
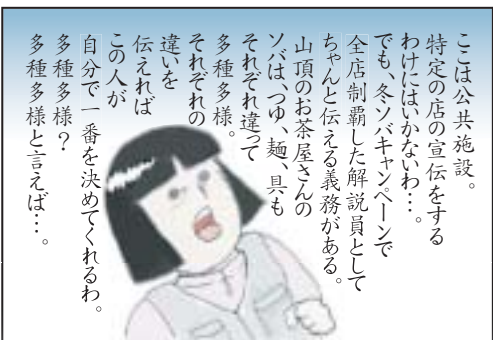




「のぶすま」は高尾山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方は窓口へお申し付けください。

高尾山4コマ漫画 その26 一番おいしいおソバ の巻

作・画 ばん



※この物語はフィクションです。

季刊 高尾ビジターセンターニュースレター
「のぶすま」2013年春号 Vol.34
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成
2013年4月19日発行
所在地：
〒193-0844 東京都八王子市高尾町2176
電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926
URL：<http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/>
(カラー版最新号を閲覧できます)

春のひとこと

今年の冬は寒かったですね。でも、春が来ると、あっという間に暖かくなり、植物の開花も例年より早め。見逃さないようにご注意。

季節のみどころ

4月	タチツボスミレ(全コース)、タカオスミレ(1号路、日影沢)、ユリワサビ(全コース)、ムラサキケマン(1号路、3号路)、ミヤマキケマン(1号路、稲荷山コース)、キランソウ、ラショウモンカズラ(4号路)
5月	コミヤマスミレ(6号路)、コゴメウツギ(全コース)、マルバウツギ(全コース)、ガクウツギ(5号路、6号路)、ニガナ(1号路、稲荷山コース)、ハナイカダ(5号路、6号路)
6月	イナモリソウ(1号路、6号路)、ノアザミ(一丁平、小仏城山)、セッコク(1号路、6号路)、ムラサキシキブ(稲荷山コース)、ホタルブクロ(1号路、稲荷山コース)、ギンリョウソウ(3号路、5号路)、ヤマアジサイ(全コース)、アカショウマ(全コース)

ビジターセンター通信

3/24【自然講座】 「植物のくらしを見に行こう! in 高尾山」実施報告

植物写真家の新井和也氏を講師に、環境による植物の種類の違いについて学びました。じっくり観察することで、日当たりの良いところ、悪いところなど、環境によって植物の種類が異なることを実感できました。また、自然に与える負荷を少なくする撮影方法についても学びました。



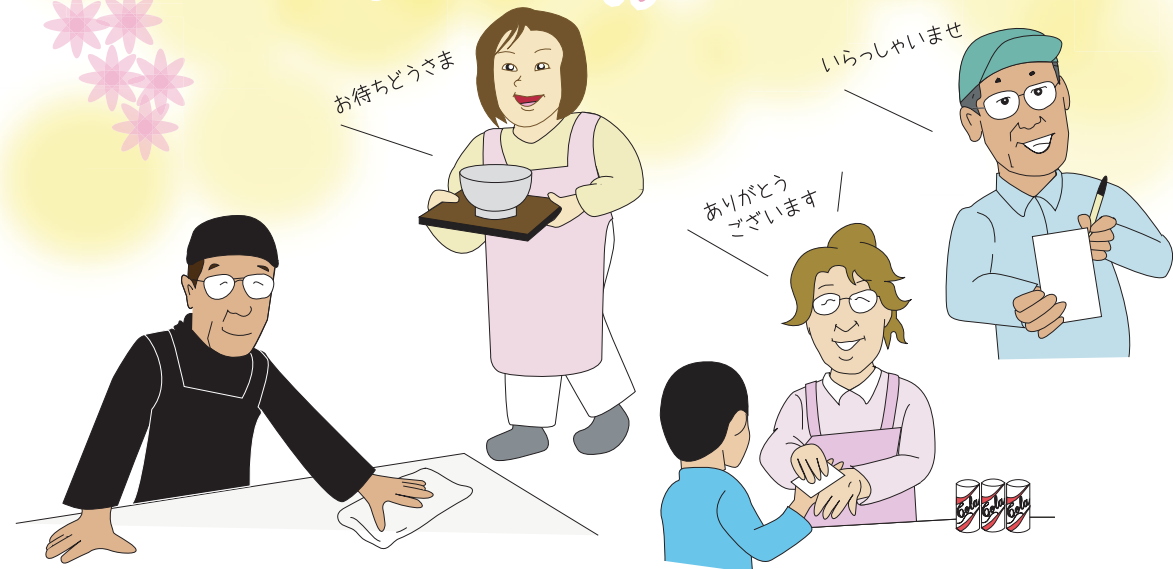
参加者は植物の好きな方達でしたが、「今まで植物と環境の関係について、考えたことはなかったが、講座を通じて関心が出た」といった感想も聞かれ、植物と環境の関係について関心を深め、自然についての新たな視点を持って頂くことができたようです。

これからの行事予定

- 5月19日(日)
【ファミリー自然教室・春】みどりの高尾山麓・親子で探検
緑の森を巡りながら、ゲームを楽しみ自然の素晴らしさを発見する。
対象：小学生とその保護者 定員：40名
締切(消印有効)：5月1日(水)
- 6月2日(日)
【自然教室】高尾の昆虫探偵団
昆虫観察を通じて、高尾の自然の豊かさを知ってもらう。
対象：小学生とその保護者 定員：40名
締切(消印有効)：5月10日(金)
- 7月6日(土)
【自然教室】もうすぐ夏休み!高尾山で登山のファーストステップ
夏と言えばやっぱり山に行きたい!でもどんな準備をすればいいのかな?地図って持っていかなきゃダメ?夏休みの前に、地図の読み方や登山の心得を知って、もっと夏を楽しもう!
対象：高校生以上 定員：20名
締切(消印有効)：6月25日(火)

老舗お茶屋さんに聞いてみました

高尾山の春といえば…



「高尾山の春といえば…」あなたなら何を思い出しますか?
高尾ビジターセンターのある山頂周辺には、4軒の老舗お茶屋さんが営業をしています。
「高尾山の春といえば…」と質問したところ、長年山頂で暮らすお茶屋さんだからその興味深いお話を伺うことが出来ました。
まずは、思い出の春の話をご紹介します前に、お茶屋さんを取り巻く高尾山頂の歴史をみてみましょう。

お茶屋さんに聞いた高尾山頂の今昔

現在は大きな木々の繁る高尾山頂。大正の頃はススキ原で、しばしば強風が吹いていました。山頂が観光地となったのは昭和2年頃。地元の観光の目玉として高尾山から小仏城山へ続く道が整備され、ヤマザクラが植えられ、それに伴い「細田屋」「曙亭」「大見晴亭」が開業しました。少し遅れて昭和20年頃「やまびこ茶屋」が開業しました。



その頃は、今と違う大変な苦勞がありました。水道はなく、5号路南側から湧き水を汲んで使用していました(現在の湧き水は飲用に適していません)。また、麓から山頂まで車が通れる道もなかったため、飲料ビンや食材をケーブルカー高尾山駅から背負ってあがっていました。不便な生活を補うため、当時お茶屋さんは山頂で暮らしていました。
やがて湧き水を山頂まで汲み上げるポンプを設置し、各お茶屋さんで水を溜めて使えるようになって、水汲みの苦勞は多少軽減されました。その後、日影沢から水を汲み上げるポンプと水道が完成し、水汲みはなくなりました。
現在は麓から山頂まで水道がひかれ、荷揚げ用作業道も整備されました。また、長年の植樹により山頂に木々が増え強風も和らぎました。

こうした山頂の移り変わりを見てきたお茶屋さんに聞いた
「高尾山の春といえば…」 皆さんはどんなものだと思いますか?



のぶすま

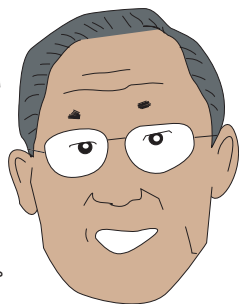
2013年春号
Vol. 34

「のぶすま」とは、ムササビの古い呼び名です。
高尾山に住む人気者のムササビにあやかって、「のぶすま」とつけました。

ほそだや 細田屋

三代目
細田昇さん

小学校に通うまで祖母と二人、山頂で暮らしていました。山頂は今ほど登山客が多くなく、同世代の友達もいなかったのて寂しい思いをしていました。ヒグラシやキジノバの声を聞くとより一層寂しさが募ったものです。麓で暮らし始めてからもお茶屋の手伝いをし、中学生の時はジュース瓶3ケースを担いで登ったことも。水汲みも大変な重労働でした。

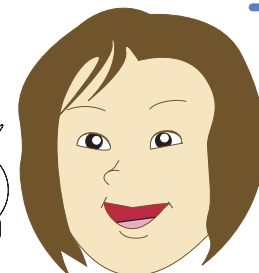


山頂周辺老舗

お茶屋さんにお話を伺いました

登山道が削れないようにストックの先にカバーをして、皆の登山道を守りましょう。快適な登山道の保全にご協力をお願いします。

誰もが気持ち良く高尾山を利用できるように山のルールを守って、皆さんの高尾山を楽しみましょう。



おおみはらしてい 大見晴亭

三代目のお姉さま
永濱多摩子さん

保育園に行くまで山頂で暮らしていました。山頂では友達が無く、いつも三代目を継いだ弟の文弥と姉弟二人で遊んでいました。父に作ってもらった竹の包丁で野草を切ったり、二人だけで小仏城山や大垂水峠まで遊びに行ってしまう周囲の大人たちを心配させたこともありました。子供だった私たちにしてみれば高尾山全体が「庭」でした。

昇さんの春といえば…「霜枯れが終わる頃」

昔の山頂の冬は霜枯れといって登山客はあまり訪れませんでした。山頂の登山道は霜が融けることもなく、積雪量も多かったので、冬は山頂のお茶屋は閉めていました。細田屋は現在も昔からの習慣をそのままにお茶屋を閉め、春から来られるお客様の為、修繕をしています。この「霜枯れ」の季節が終わると、「春が来た！」とお茶屋を開店します。



多摩子さんの春といえば…「サンショウの新芽」

子供の頃、春の山頂は遠足の子供達で大賑わい。その代わり、お茶屋の客足は伸びず…。そんな時は家族でサンショウの新芽を採りに出かけました。採ってきたサンショウは、虫を取り除くため一晩干し、空煎りし、醤油で味付けをしました。すごく塩辛い為、ほんの少しでご飯が何杯も食べられました。近年は高尾山利用者の増加に伴い、植物保護のため山の恵みは採っていません。



column
コラム

霜枯れの登山道

現在、山頂の登山道は冬になると霜が凍結と解凍を繰り返し、登山者に踏まれ、田んぼのようにぬかるみます。地面より突き出ている土管は、元々地面と同じ高さでした。登山客の靴底に土ついて道が削れた証拠です。登山客が快適に歩けるようにコモを敷くなど対策を試みています。

あけぼのてい

曙亭

三代目の奥様
高城美智子さん

三代目の主人に嫁いだのは30年前です。それから、主人と一緒にお店を切り盛りしています。一番上の子供が保育園に上がるまで山頂で暮らしていました。子供たちを育て上げた後、お店に復帰しました。最近は大学生のアルバイトさんと一緒に「学校の先生」になったような気分で楽しく仕事をしています。



皆様のご協力で山内のゴミは減少しました。感謝しています。「ごみの持ち帰り運動」に、これからもご協力をお願いします。

美智子さんの春といえば…「カエデの赤い新芽」

嫁いだ当初、慣れない不便な山の生活に苦勞の連続でした。そんな中、気が付いたのがお店の窓から見えるカエデの幼木。仕事の傍らに何気なく見ていましたが、年を追うごとに太たくましくなる幹、山頂の雪が融けた後に付ける赤い新芽を見て「また、春が来た！」と思い、ずいぶん励まされました。



column
コラム

赤い新芽

新芽の赤い色素(アントシアニン)には抗菌作用や虫の幼虫を寄せつけない作用があり、また、新芽の中にある光合成を行う未熟な葉緑体の発達を促す働きや、太陽の紫外線から守る働きがあると考えられています。生まれたての春の弱々しい新芽を、赤い色がい로운外敵から守っていることが知られています。



column
コラム

高尾山のサンショウ

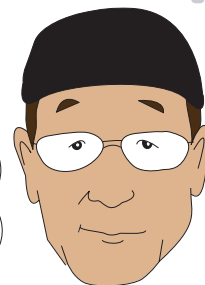
高尾山には「サンショウ」と名の付く植物は、サンショウ、カラスザンショウ、フユザンショウなどがあります。人間はサンショウしか食用としませんが、他の「サンショウ」と名の付く植物も葉はアゲハチョウの仲間の幼虫、実はヒヨドリなど野鳥の食べ物として、いろいろな森の生き物の食欲を満たしています。

ちゃや

やまびこ茶屋

三代目
松村高雄さん

子供の頃は、山頂で暮らしていました。小学生から麓で暮らし始めましたが、山での仕事も手伝っていました。20年程前、勤めていた会社を辞め再び店を手伝うようになり、11年前から本格的に店を継ぎました。最近は小学校の遠足の事前学習講師も務め、高尾山の自然や歴史、自然保護問題を子供達に伝える活動をしています。



お気軽にお声を掛けて下さい。一緒に高尾山の今や昔についてお話をしましょう。

高雄さんの春といえば…「ラン」

子供の頃は、私の中では貴重とはほど遠いイメージだったラン。お茶屋の裏の下斜面では、いろいろなランたちが咲き乱れていました。そんなランたちを見て「春だな～」と感じていました。ところが15年ほど前からランの数が減少し、今の山頂では数えるほどしか見なくなってしまい、とても悲しく思っています。



column
コラム

ランの減少

高尾山のランの減少は色々な要因が考えられます。心無い人々による盗掘の報告もあり、減少の一因となっています。また、野草を撮影する為、登山道の外に足を踏み入れる利用者が多く、自生地が踏み固められ、植物が生えにくい土地(裸地)になり、ランだけでなく他の植物にも影響を及ぼしています。

高尾山で育ち、暮らし、働くお茶屋さんとお話してみませんか？

新しい高尾山の発見や出会いがあるかもしれませんよ。

お茶屋さんでほっと一息♪ 忙しい時間帯を避けると、ゆっくりお話ができます。